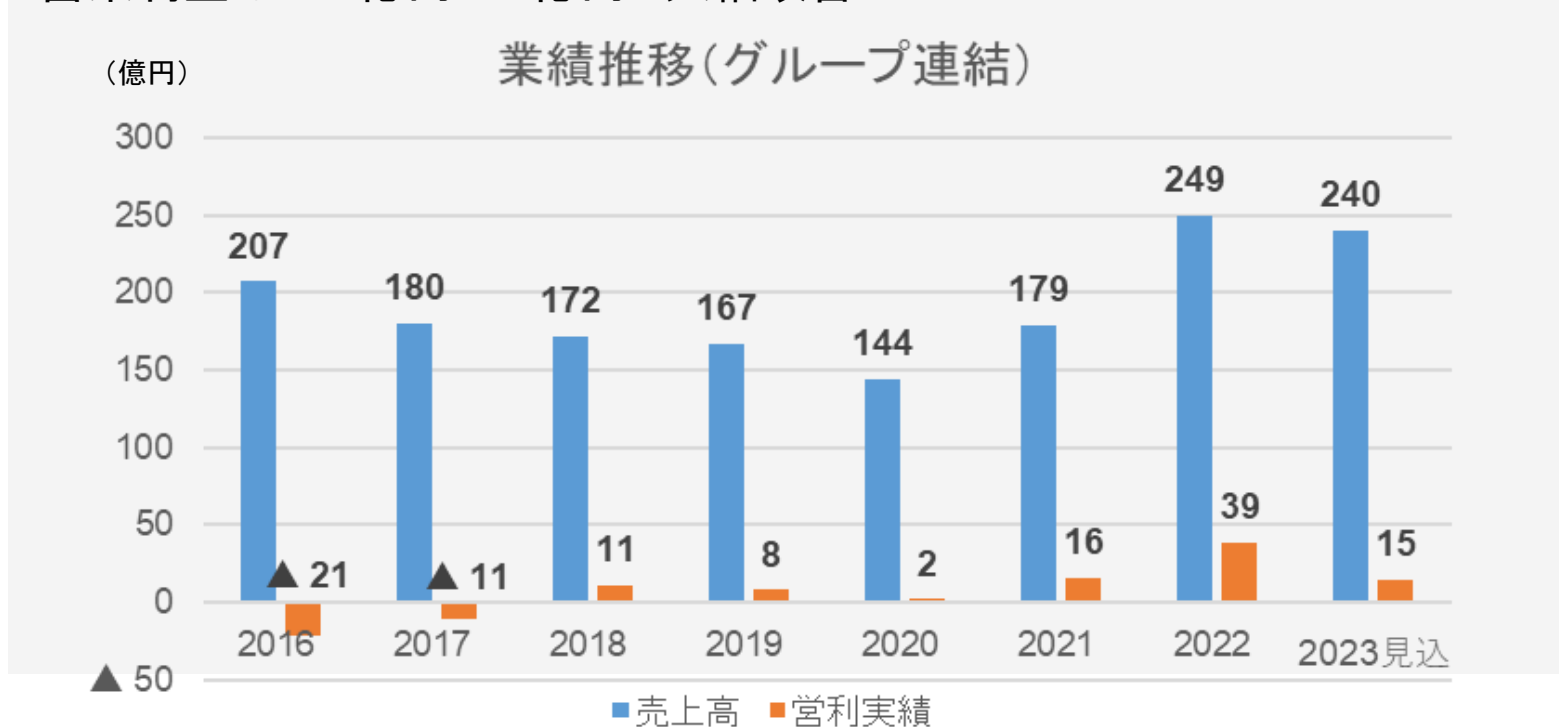


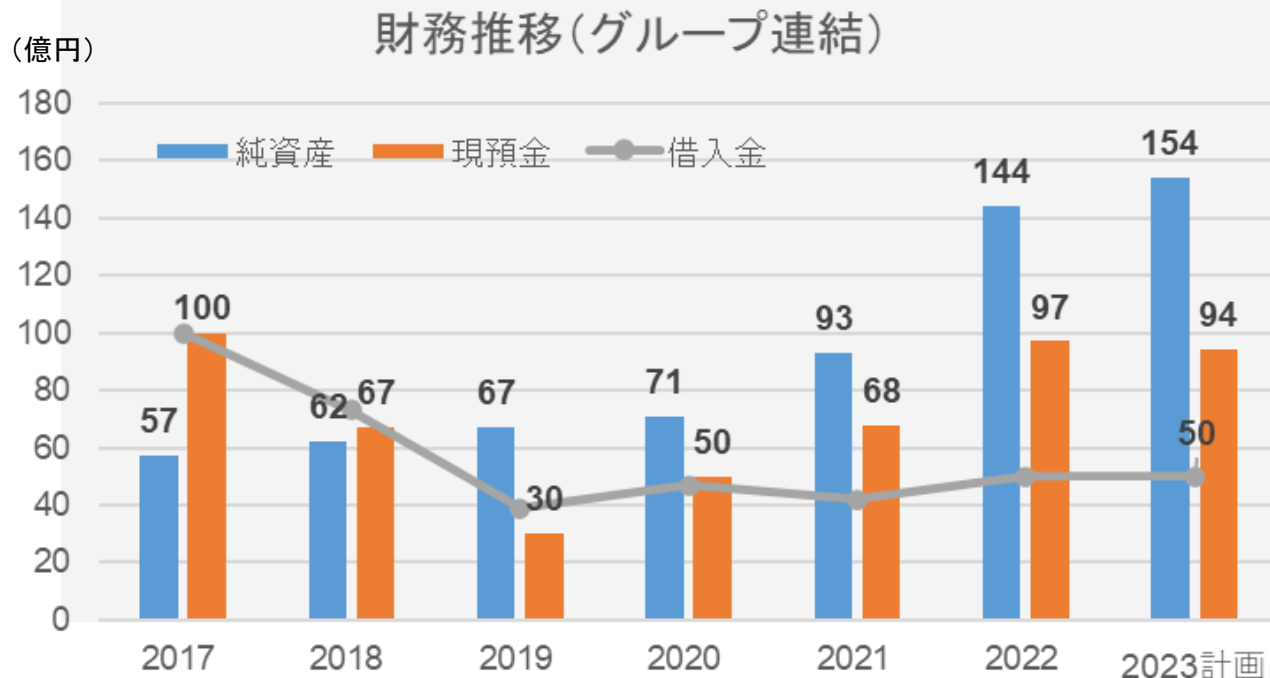
新本社・新工場建設計画
~Orbrayの更なる発展に向けて

2023年5月

- 2016~2017年に大規模構造改革及び旧2社合併を進め、2018年に黒字転換
- 2020年にコロナ影響で減収減益となるも、主要事業を中心に売上が成長し、2022年売上・営業利益は249億円・39億円と大幅改善



- （財務の健全性を表す）純資産は、2017年：57億円⇒2022年：144億円へと大幅改善
- 借入金は、2017年：100億円⇒2022年：50億円へと大幅削減
- 足元の現預金は、100億円近い水準を確保



再建フェーズに目途

長期将来に向けた
事業強化策を今後
に講じていく

単位:億円	2022 実績
フォトニクス(横手工場)	83
精密宝石(湯沢工場)	56
ダイヤ(湯沢工場)	-
モーター(黒石工場)	33
医療装置(タイ工場)	77
売上計	249
営業利益	39
従業員数(人)	2,000

2028 計画	主要施策
160	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ダイヤ基板の売上強化(EV、半導体など) ✓ 新規ビジネスの立上げ(EV部品など:アライアンス及びM&A含めた検討) ✓ 新工場建設(老朽化対策、新規取組強化)
160	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医療用ポンプ新製品の本格立上げ ✓ 医療用・ロボット用小型モーターなど強化
320	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引続き更なる売上成長を軸に、積極投資及び人員増強を図っていく ✓ フォト・精密宝石・ダイヤは、ダイヤ基板売上強化及び新規ビジネス立上げ含め、今後の売上強化策を本年中に具体化
30	
2,400	

拠点一覧

Orbray



青森県
黒石工場



秋田県
横手工場



タイ チェンマイ
Orbray (Thailand) Co., Ltd.



米国 シリコンバレー
Orbray California Inc.



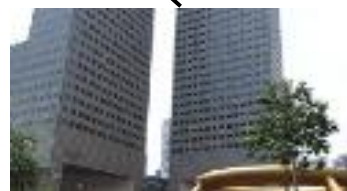
東京都
本社 / R&D



秋田県
湯沢工場



ドイツ デュッセルドルフ
Orbray Europe GmbH



シンガポール
Orbray Singapore Pte. Ltd.



米国 ニュージャージー
Orbray New Jersey Inc.

精密宝石部品



光通信部品



コアレスモーター&ユニット



医療機器



1. 建物インフラの老朽化問題

- ✓ 東京本社・湯沢工場では、築年数50年超の建物が多数

2. 新規事業の取組強化

- ✓ 新規ビジネス立上げ(EV部品など)について、湯沢・横手一体となって取り組んでいく(アライアンス及びM&A含めた検討)。ダイヤ基板の売上も強化

3. 地域におけるブランド・魅力度向上(魅力ある拠点作り)

- ✓ 少子化・採用競争激化に対応すべく、地域におけるブランド・魅力度を更に高める必要(現状、県南地域での湯沢・湯沢第二・横手工場の人数規模は、5~10番手)

4. 事業承継リスクへの対応(事業承継に不安を抱える近隣外注へのサポート)

- ✓ 事業主・従業員高齢化により事業承継に不安を抱える近隣外注へのサポート(20数社、200数十名)

左記に対する抜本対策を今後に取り組み

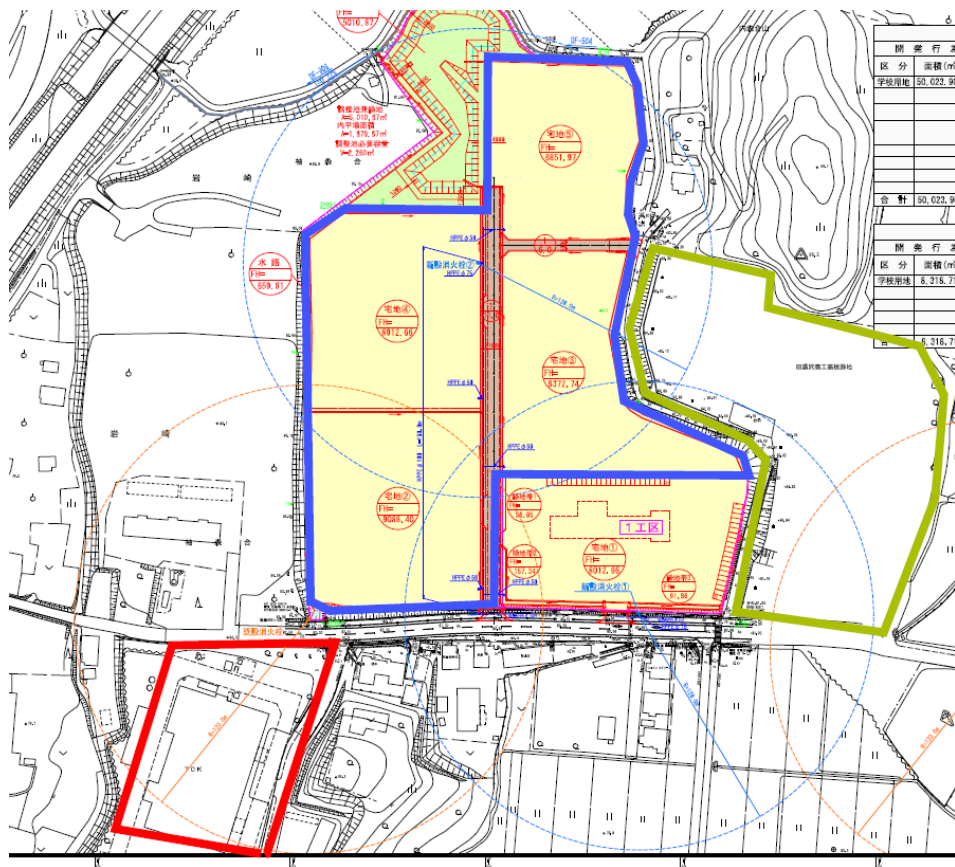
湯沢市(成沢:最寄り駅は下湯沢)に新工場・新本社を今後建設



横手市には十分な空き
の工業団地が無い（他
県からの工場進出な
ど）

成沢工業団地の隣の敷
地：県所有地（旧湯沢
商工高校跡地）も含め
て購入を検討

土地の購入価格は、両
物件併せて約4億円



成沢工業団地(4/5区画、33,155m²)

県所有地(22,334m²)

仮称：岩崎工場(敷地：15,296m²)(※)

※ 仮称：岩崎工場の正式名称は、8月予定の稼働時に改めてご案内

1. 本社機能の一部移転及び工場再編集約（湯沢、湯沢第二、横手、近隣外注）

- ✓ 今後5~6年後を目途に、本社及び工場の老朽化対策及び事業強化策として、本社機能の一部移転及び次世代商品開発生産に対応した工場再編集約を進める
- ✓ 旧湯沢商工高校跡地（約22,334m²）及び成沢工業団地の空き区画（約33,155m²）を購入し、新工場を建設。既存工場（湯沢、湯沢第二、横手）を集約すると共に、本社機能を一部移転。一部近隣外注をサポート

2. 秋田県湯沢市への本社移転登記

- ✓ 本社機能を一部移転後、秋田県湯沢市への本社移転登記を実施
- ✓ 新本社の組織・機能は、本年中までに大枠確定予定

3. 人員体制の増強

- ✓ （現状の湯沢・横手工場人員体制は700名強であるが）更なる事業強化・近隣外注へのサポート・本社機能の一部移転により、800名強への体制増強を図っていく
- ✓ 今後、年間10~15名の新卒・中途採用を計画（定年退職者の補充も含む）

4. 魅せる工場作り、魅力ある職場作り

- ✓ 来工された方々が「この会社と繋がりをもちたい」と思って頂ける様な快適な空間、充実した展示スペース、視聴室、体験工房など、一般の方々も楽しめるスペース
- ✓ 女性視点のレイアウト。他部署との交流が盛んな風通しの良い現場作り。リフレッシュルーム、交流スペースの検討など

5. 社員寮の建設、遠方通勤者への手当

- ✓ 近年は採用競争が激化している中、遠方・近隣他県からの採用及び海外研修生など向けの社員寮建設も併せて計画。地域に対するエンゲージメント強化を目的とした、若手社員同士の交流イベント(弊社内、他社間)
- ✓ 遠方通勤者向けの車便、最寄り駅(下湯沢駅)からの車送迎、遠距離に応じた通勤手当及びシフト勤務など検討

6. その他

- ✓ 新工場総投資額は100億円強、(補助金など勘案した)実質負担額は70～80億円前後
- ✓ 上記負担額につき、手元預金(現預金残は100億円:余剰現預金は数十億円)+今後の収益にて賄う(本年以降、年間15~20億円の利益計画)
- ✓ 既存工場(湯沢、湯沢第二)について、外部への売却を考えている。横手工場は(現在検討中の)新規ビジネスの兼ね合いもあり、本年中までに最終方針を判断
- ✓ 立体ないし屋内駐車場を現在検討中

第一期工事 (2025年後半~2026年)

【新本社建設】

- ✓ 新本社社屋建設による、本社機能及び工場間接の一部機能移転開始
- ✓ 2026年前後、新本社へ本社移転登記実施

第二期工事 (2026年後半~2029年)

【湯沢・湯沢第二より移転】

- ✓ 工場建設による、湯沢工場・湯沢第二工場からの移転

第三期工事 (2030~2032年)

【横手より移転】

- ✓ 工場建設による、横手工場からの移転

※ 新本社の組織・機能は、本年中までに大枠確定予定

※ 新本社・工場のレイアウト・面積など、本年後半~来年での建築設計にて詳細検討予定
(規模感として、新本社は5,000㎡前後、工場は30,000㎡前後を想定)

※ 5~6月中に社内プロジェクトを立上げ

5月25日(木)午前	湯沢市・弊社間の調印式・記者会見(売買協定書の締結)
5月25日(木)午後	弊社の記者会見・プレスリリース(新本社・新工場建設について)
6月下旬	6月議会補正予算可決(湯沢市)
2024年	建築設計
2024年~2025年	造成工事(下水道など含む)
2024年春	土地の売買契約
2025年春	不動産所有権移転登記
2025年後半~2026年	建設工事(第一期)スタート

1. 環境への配慮

- ✓ 秋田県で生産された素材・製品を多く使用(秋田木工、照明など)
- ✓ 湯沢工場で使用していた家具を転用し、別の家具へとリサイクル
- ✓ 緑豊かなリフレッシュエリアの創出(地元の園芸店にメンテナンスを依頼)

2. エンゲージメント

- ✓ 光あふれる気持ちの良いエントランス&食堂エリアを提供
- ✓ 図書エリアやカフェ、軽食ゾーンを設ける事で、そこに行けば何かに出会える場所づくり
- ✓ ここで作っているものに直接触れる事の出来る場所(レコードブースなど)

3. フレキシビリティ

- ✓ 作り込まないインテリアとする事で、今後の変化に備えてカスタマイズしやすい空間を提供
- ✓ 食堂機能だけでなく、ミーティングでの利用や地域の学生の利用など、地域に開かれた空間(WIFI環境・電源タップの充実)

外観について

- ・レコードの針やサファイヤ基板をモチーフに、「切る、削る、磨く」Orbrayの技術力を表現
- ・既存のダクトや窓などに重ならない位置にステンレスのプレートを配置することで、**既存の建物の歴史を尊重**したデザイン



エントランス：正面

Orbrayのサインの両側に写真家 渡辺洋一氏による、秋田の新緑及び冬の風景写真を展示



食堂：中央から見る

